

【資料 1】

事業の進捗について

評価の分類

順調、課題あり、未着手

※本資料中「令和5年度にやること」は、「現時点での考え」であり、実施が決定しているものではないことにご留意願います。

戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-1. グリーンシーズン、全天候型のプログラムの造成

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町には冬の厳しい時期があるからこそ、鮮やかな四季の魅力、時間帯ごとの魅力があります。これらの魅力や楽しみ方をさらに掘り起こし、来訪者が楽しめる仕組みづくりを行います。また、悪天候時でも楽しめる滞在場所やプログラムの構築等も進めます。



©苗場スキー場



戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-2.ガイド組織の構築 前期（2022-24）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町では特に近年、苗場山や平標山の登山人気が高まっており、若年層も含めて多くの登山客が訪れています。また、登山以外にもトレッキングやトレイルラン、冬のバックカントリーなど様々なアクティビティがありますが、そこで重要になるのがガイドの存在です。現在、湯沢町ではガイドの組織が存在しないため、早急にガイド組織を立ち上げ、ガイドの見える化、お客様とガイドをつなぐ仕組みの構築を進めます。

実施時期中にやること	山歩き・町歩きの取組を通じて、ネイチャーガイドやアクティビティインストラクター組織の設立案の取りまとめを進め、ガイド組織の構築に向けた道筋をつけていく。		
令和4年度中にやること、やったこと	町歩きをはじめとしたガイドの取組として「おらっぽ」が定期的に町歩きイベント等を実施しており、連携を進めている。8月6日のハチロクゆかた祭り際には語り部による紙芝居企画を雪国館と共同で実施した。箱根町視察を行い、DMO認定ガイドという独自形態のガイド組織について体験、情報交換を行った。		
令和4年度にできなかったこと、その理由、解決方法	山岳ガイドについては、資格者の確保も課題となっている上、所属ルール等をクリアする為のハードルも高いことから、山歩きと町歩きを切り分けた上で検討・進めて行く必要がある。		
評価	予算額	課題あり	1,660千円
令和5年度にやること	「おらっぽ」との連携強化を行い、ガイド組織設立に向けての検討を行う。		



ジャンル： イベント / ととほ(案内人)： おらっぽ一同

ハチロク浴衣まつり

日程： 2022/8/6(土) ひさしぶりの開催となるハチロク浴衣まつりに「おらっぽ」も初出店します！

開始： 17:00 活動報告を兼ねた「おらっぽって何？」にお答えするブースと、案内人として活躍して下さっている皆さんの作品の販売・実演を行います。

終了： 21:00

場所： 雪国館前 湯沢町湯沢354-

料金： ￥400

定員： なし

申込： 右フォーム または電話 (080-4020-3224)

17:00～と19:00～の2回、湯沢町の雪い伝えを紙芝居にしているべとっさんの登場です！ぜひお越し下さい！

地域の良さをもっと内外に広めたいと活動する【おらっぽ】です！

*天候によって中止になる場合があります。

おらっぽwebページ
お問合せ、お申込みはこちら→080-4020-3224(Sansan Yuzawa)/orappoguide@gmail.com
主催：地域案内人のおらっぽ / 協力：雪国観光会 湯沢温泉

戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-3. 町内の各エリアの特徴を活かしたコンテンツづくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町には、苗場かぐらエリア、湯沢つちたるエリア、湯沢神立エリアと性格の異なる3つのエリアがあります。目的や滞在スタイルにあった選択をしていただけるよう、各エリアの特徴を際立たせた発信をおこなうとともに、エリアごとの魅力づくりを進めていきます。

<p>実施時期中にやること</p>	<p>エリア協議会単位での支部化を進め、地域ごとの特徴を活かした、新しい観光ニーズに応えられる体制づくりを進める。「中里秋祭り」「飯土登山祭」「苗場ボードウォークキャンプ」などの地域で行われる事業において連携するとともに、引き続き感染拡大防止対策に取り組む。</p>
<p>令和4年度中にやること、やったこと</p>	<p>湯沢・神立エリアで行われたハチロクゆかた祭り（8/6）開催にあたって事務局業務の受託と「ゆざわマルシェ」の同日開催を行った。秋季には湯沢つちたるエリアの中里秋祭り（10/15）、飯土登山祭（11/6）で「ゆざわマルシェ」を同時開催した。苗場かぐらエリアにおいては、10/22に苗場ドラゴンドラの営業時期に連携イベントとしたマルシェを開催したほか、10/29には湯沢高原にて秋季連携事業として実施している。ハチロクゆかた祭りでは、新潟県補助事業を活用し、感染拡大防止対策を講じた。</p>
<p>令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法</p>	<p>新型コロナ禍から徐々に客足が戻りつつあるが、以前の状態まで戻る状況には至っていない。更なる魅力向上・情報発信により、来訪者増に結び付ける必要がある。</p>
<p>評価</p>	<p>課題あり</p>
<p>令和5年度にやること</p>	<p>より効果の高い周知方法の検討と実施。</p>
<p>予算額</p>	<p>5,000千円</p>



マルシェの写真
9月以降の実施分

戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-4.温泉魅力の掘り起こしと温泉資源のさらなる活用

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町内には温泉旅館が集積した越後湯沢温泉のみならず、共同浴場や秘湯と呼ばれる貝掛温泉や赤湯温泉など、広い範囲で様々な温泉を楽しむことができます。こうした様々な温泉資源があることを強みとするためにも、源泉や泉質の特徴を再度見直し、魅力づくりを進めていきます。



©苗場スキー場



戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

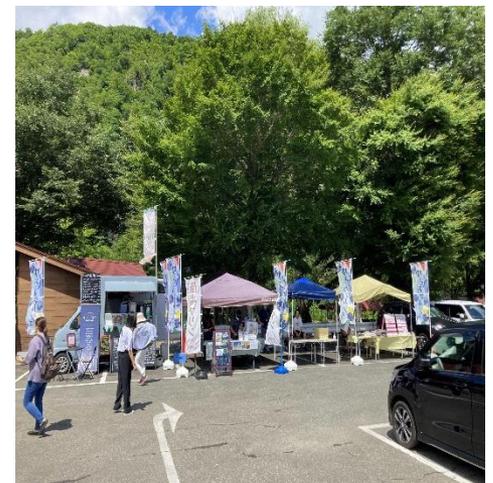
- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-5.湯沢町ならではの食・特産品の魅力づくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町産のお米は一等米比率が高いことでも有名です。米をはじめ、かぐら南蛮、トマト、アスパラガス、苺など季節ごとの質の高い農産物を活かした食の魅力づくりや特産品の開発を行います。

実施時期中にやること	令和3年度にはじまった「ゆざわマルシェ」を町内イベントと連携させながら実施していく。湯沢産野菜や加工品、クラフト作品などの紹介を引き続き行っていく。		
令和4年度中にやること、やったこと	令和4年度は5月15日開催の「ゆざわグリーンフェス」での実施と、7月17日に湯沢フィッシングパーク、8月6日には「ハチロクゆかた祭り」と同時開催として実施した。秋季は10月15日の中里秋祭り、11月6日の飯土登山祭での連携開催と、10月22日には苗場スキー場、10月29日には湯沢高原での実施を行った。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	野菜等の出店者が限られており、今後、生産者とのコミュニティ形成を更に進める必要がある。回を増すごとに出店者が増えたという順調な面もあるが、円滑な開催に向けた事前調整等、運営部分にはまだ課題が残っている。		
評価	予算額	課題あり	950千円
令和5年度にやること	出店店舗及び来客数の増加施策。		



戦略1：湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

戦略1 湯沢町も広域も！オールシーズン楽しめる仕組みづくり

基本方針①、②

- ✓ スキーシーズンのみならず、グリーンシーズンに楽しめる資源や要素は町内に多く存在し、湯沢町ではこれまでも夏のフジロックフェスティバルの誘致、紅葉期のドラゴンドラの運行、学生の合宿の誘致などを行ってきました。こうした特徴的なコンテンツを引き続き強化しつつ、湯沢町ならではの特性や資源性を活かし、観光産業のみならず、農業や製造業など多様な産業と連携した湯沢町らしい経験価値を体感できる仕組み（施設の整備、コンテンツづくり等）を構築します。
- ✓ また、未だ十分な魅力の掘り起こしと活用ができていない温泉資源や農産物などを活かしたコンテンツを造成していくとともに、雨天時でも楽しめる仕組みや市町村域を超えて広域で周遊できる仕組みづくりをおこなっていきます。

1-6.広域で周遊できる仕組みやコンテンツづくり（広域サイクルルートやトレイル等の活用）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前中期（2022-26）

雪国観光圏や新潟県の玄関口・滞在拠点でもある湯沢町の特性を活かし、行政域にとらわれずに広域で楽しんでいただけるコンテンツづくりを進めます。特に、近年は自転車やトレイルランで楽しめるルートの整備なども行われており、周辺市町村や各協議会と連携しながら、受け入れ環境の整備を進めます。

実施時期中にやること	広域連携については雪国観光圏と連携しながら取組を進めることとしている。雪国観光圏とはそれぞれの役割を明確にしなが、今まで以上に緊密なやり取りを進める。また、今年度は「大地の芸術祭」が開催されており、有力なコンテンツとして周遊観光に繋がっている。		
令和4年度中にやること、やったこと	一般社団法人雪国観光圏とともに越後湯沢温泉観光協会からの事業継承の作業を進めた。冬季のプラン造成に係る事業切り分けについても確認し、会員宿泊施設の冬季プラン作成について、取扱い索道施設が増加するように取組んでいる。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	3,000千円
令和5年度にやること	引続き連携事業に取り組む。		

戦略2：世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

戦略2 世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

基本方針①、②、③、④

- ✓ 特に首都圏からのアクセスの良さに加え、初心者から上級者向けまで幅広い層が楽しめる多様なスキー場がある点、様々なタイプの宿泊施設が集積している点、宿泊の誘引ともなる温泉資源に恵まれている点、グリーンシーズンのコンテンツも徐々に醸成されている点といった湯沢町の強みを最大限に活かし、特にスキー初心者や幅広い世代が楽しめる国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。
- ✓ こうした湯沢町の特性を活かしつつ、「スキーをしない人も楽しめる要素があること」「初めての人（スキー初心者・日本初心者）にわかりやすく、やさしいこと」「四季を通じて多様な楽しみ方ができること」「清潔・安全・安心であること」を意識した「スノーエントリー層に世界一やさしい、多様な山の楽しみ方があふれる身近なスノーリゾートYUZAWA」を実現し、これまでの固定観念にとらわれない、時代に応じた多様な楽しみ方を積極的に提案するスノーリゾートを具体化します。

※湯沢町は2020年7月に観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定され、湯沢町スノーリゾート形成計画に基づき取組を進めています。

2-1.初めての人や子供、高齢者にやさしい安心安全なスノーリゾートづくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前中期（2022-26）

スノーエントリー層に世界一やさしいスノーリゾートを目指し、ウィンタースポーツを初めてする人、雪を見たことがないインバウンド、子供、高齢者、障がいのある方など、多様な方が快適かつ安心安全に滞在できるよう、ハード・ソフト両面の受入環境整備や情報発信、医療施設との連携体制の構築等を行います。

実施時期中にやること	令和2年度から観光庁「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」にエントリーし、安心・安全に向けた取組を進めており、令和3年度には、まちづくり機構HP内にエントリー層向けに情報を特化したページを設けた。今年度は新潟県及びスキー場と連携しながら、インバウンドを含めたエントリー層向けに気軽に楽しめるコンテンツ造成などを進めている。		
令和4年度中にやること、やったこと	令和4年度は、神立、湯沢中里、湯沢高原、ガーラ湯沢、石打丸山の5つ（交付決定数）のスキー場が「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」に取り組んでいる。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	国の交付決定が遅れた関係で、事業が降雪前又は年度末までに終わるか懸念がある。また、国際情勢による材料の納期遅れにより、事業進行に影響があるものも存在している。		
評価	予算額	課題あり	3,300千円
令和5年度にやること	事業者と連携したプラン作成やコンテンツ整備		



<https://www.e-yuzawa.gr.jp/sys/wp-content/themes/yuzawa/img/ski/photo-04.jpg>



https://www.e-yuzawa.gr.jp/sys/ski_p/%e6%b9%af%e6%b2%a2%e9%ab%98%e5%8e%9f%e3%82%b9%e3%82%ad%e3%83%bc%e5%a0%b4/

戦略2：世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

戦略2 世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

基本方針①、②、③、④

- ✓ 特に首都圏からのアクセスの良さに加え、初心者から上級者向けまで幅広い層が楽しめる多様なスキー場がある点、様々なタイプの宿泊施設が集積している点、宿泊の誘引ともなる温泉資源に恵まれている点、グリーンシーズンのコンテンツも徐々に醸成されている点といった湯沢町の強みを最大限に活かし、特にスキー初心者や幅広い世代が楽しめる国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。
 - ✓ こうした湯沢町の特性を活かしつつ、「スキーをしない人も楽しめる要素があること」「初めての人（スキー初心者・日本初心者）にわかりやすく、やさしいこと」「四季を通じて多様な楽しみ方ができること」「清潔・安全・安心であること」を意識した「スノーエントリー層に世界一やさしい、多様な山の楽しみ方があふれる身近なスノーリゾートYUZAWA」を実現し、これまでの固定観念にとらわれない、時代に応じた多様な楽しみ方を積極的に提案するスノーリゾートを具体化します。
- ※湯沢町は2020年7月に観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定され、湯沢町スノーリゾート形成計画に基づき取組を進めています。

2-2.回遊性の向上（ゲートシステムの導入と共通リフト券の導入等）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

湯沢町内には規模や特徴の異なるスキー場が11存在しています。アクセスの良さから日帰りのスキー客も多いですが、できるだけ長く滞在していただき、ゲレンデの状態や気分等にあわせて回遊していただける仕組みを構築します。そのためにも共通リフト券の導入（2021年度中に運用開始予定）やゲートシステムの導入、スキー場シャトルバスの利便性向上等によって、お客様は快適に、受け入れ側にとっては滞在時間の延長による消費額の拡大やCRM（カスタマーリレーションマネジメント：顧客のデータを入手しつつロイヤルティを高める関係性を構築）による顧客との関係構築が見込めます。湯沢町全体が一つのエリアであることを各主体、全事業者が認識・連携し、シームレスな（継ぎ目のない）スノーリゾートを形成します。

実施時期中にやること	町内共通リフト券については、湯沢町スキー場振興協議会の協力のもと議論を進めている。ユーザーにとってより魅力の高い商品となるよう、新潟県、湯沢町他関係機関とともにブラッシュアップを図る。同時に、冬季における二次交通整備（情報発信含め）について協議を進めることとしている。		
令和4年度中にやること、やったこと	南魚沼市の6ヶ所のスキー場とも連携し、17スキー場共通リフト券として回数券タイプと早割券タイプの2種を設定し、11月7日から早割券タイプの販売を開始、11/15に完売している。回数券タイプは12/1より販売を開始する。 また、インバウンド向けの商品も新潟県及び湯沢町と連携しながら、販売に向けた動きを取っている。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	共通リフト券と連携する周遊シャトルバスの運行に関し、有料化により運行費用の一部確保を検討したが、法律上の問題により、有料化を図れない状況となった。来期に運行に向け、諸問題の解決策を検討・実施する。		
評価	予算額	課題あり	10,000千円
令和5年度にやること	共通リフト券のブラッシュアップ。イレブンシャトルの有料化。		

戦略2：世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

戦略2 世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

基本方針①、②、③、④

- ✓ 特に首都圏からのアクセスの良さに加え、初心者から上級者向けまで幅広い層が楽しめる多様なスキー場がある点、様々なタイプの宿泊施設が集積している点、宿泊の誘引ともなる温泉資源に恵まれている点、グリーンシーズンのコンテンツも徐々に醸成されている点といった湯沢町の強みを最大限に活かし、特にスキー初心者や幅広い世代が楽しめる国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。
 - ✓ こうした湯沢町の特徴を活かしつつ、「スキーをしない人も楽しめる要素があること」「初めての人（スキー初心者・日本初心者）にわかりやすく、やさしいこと」「四季を通じて多様な楽しみ方ができること」「清潔・安全・安心であること」を意識した「スノーエントリー層に世界一やさしい、多様な山の楽しみ方があふれる身近なスノーリゾートYUZAWA」を実現し、これまでの固定観念にとらわれない、時代に応じた多様な楽しみ方を積極的に提案するスノーリゾートを具体化します。
- ※湯沢町は2020年7月に観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定され、湯沢町スノーリゾート形成計画に基づき取組を進めています。

2-3. スキーをしない人も楽しめるコンテンツ・空間づくり

主導的に実施：湯沢町事業者 実施時期：前中期（2022-26）

日本では、スノーリゾートの楽しみ方は、スキーやスノーボード、雪遊びといったアクティビティに限られることが多いですが、ゲレンデやゲレンデからの景色を楽しんだり、ゲレンデ内にあるレストランやカフェでゆっくりする等、アクティビティをしない人でも楽しめる空間やアプローチを整備します。



戦略2：世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

戦略2 世界を見据えた国際競争力の高いスノーリゾートづくり

基本方針①、②、③、④

- ✓ 特に首都圏からのアクセスの良さに加え、初心者から上級者向けまで幅広い層が楽しめる多様なスキー場がある点、様々なタイプの宿泊施設が集積している点、宿泊の誘引ともなる温泉資源に恵まれている点、グリーンシーズンのコンテンツも徐々に醸成されている点といった湯沢町の強みを最大限に活かし、特にスキー初心者や幅広い世代が楽しめる国際競争力の高いスノーリゾートを目指します。
- ✓ こうした湯沢町の特性を活かしつつ、「スキーをしない人も楽しめる要素があること」「初めての人（スキー初心者・日本初心者）にわかりやすく、やさしいこと」「四季を通じて多様な楽しみ方ができること」「清潔・安全・安心であること」を意識した「スノーエントリー層に世界一やさしい、多様な山の楽しみがあふれる身近なスノーリゾートYUZAWA」を実現し、これまでの固定観念にとらわれない、時代に応じた多様な楽しみ方を積極的に提案するスノーリゾートを具体化します。

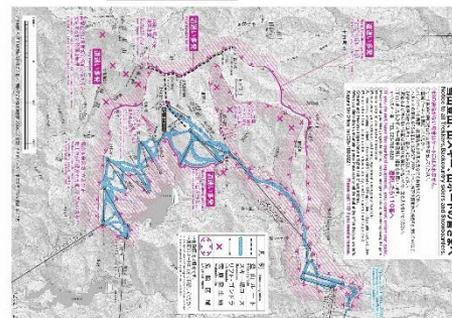
※湯沢町は2020年7月に観光庁の「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の支援対象地域に選定され、湯沢町スノーリゾート形成計画に基づき取組を進めています。

2-4. 上級者が安全に楽しめる仕組みづくり

主導的に実施：湯沢町（観光商工課） 実施時期：前期（2022-24）

スキー上級者からも人気の高い湯沢町内のスキー場ですが、より安全に楽しんでいただける仕組みが以前から検討されています。ガイドによる案内の推奨やバックカントリーのルールづくりなど、上級者も安全に楽しめる環境づくりを索道事業者と行政が一体となって整備していきます。

実施時期中にやること	毎年12月に神楽ヶ峰山域冬山登山遭難対策会議を開催している。神楽ヶ峰山域入山者には登山計画書を提出させている。		
令和4年度中にやること、やったこと	神楽ヶ峰山域冬山登山遭難対策会議を12月6日に開催予定。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	無し
令和5年度にやること	神楽ヶ峰山域冬山登山遭難対策会議の開催。		



戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、 Gondola等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのグランドデザインを描きます。

3-1.観光客・住民の導線をふまえたグランドデザイン（戦略4の内容も含む）の検討 （導線確認、結節拠点などの整備、デザインコード）

主導的に実施：湯沢町（企画政策課、建設課、観光商工課）

実施時期：前期（2022-24）

来訪客の導線をイメージしながら、どこに案内拠点や結節点を設けて誘導するか、また、利便性の高い二次交通整備や機能的にもデザイン的にも湯沢町に合った観光案内サインの整備など、テーマごとではなく地域全体の機能とデザインを検討するグランドデザインを描きます。

実施時期中にやること	湯沢町環境色彩計画や「豊かな自然と調和した美しい湯沢町をつくる条例」を施行している。また、地域公共交通活性化協議会を設置し、町内の公共交通について議論する。		
令和4年度中にやること、やったこと	地域公共交通活性化協議会を設置して議論する。これまで3回開催済。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	5,617千円
令和5年度にやること	R5はR4に作成した計画推進のため、具体的な協議などを行う見込み。		

1 湯沢町の現状の交通環境について

■ 現状の交通環境に関するまとめ

- 湯沢町外への通勤通学的手段に鉄道が使われ、観光来訪者でも新幹線の利用が多くみられるなど、公共交通の利用者は少なからず存在しています。
- 一方で町内移動や駅まで(から)の足(いわゆる二次交通)ではバスは一部利用されているものの割合は少なく、自家用車に多くを依存しています。
- 送迎サービスや様々な移動サービスは移動ニーズに個別に対応して設定されており、ルートやサービス対象が重なる例も多くみられ、**移動環境を持続し効率的な輸送を図るためには統合的な計画が求められます。**

- 昨今の急激な円安や原油価格高騰など、自家用車や送迎サービスを含む**移動環境の持続的な維持が大きな課題となることが想定されます。**
- 湯沢版MaaS事業や、雷国魚沼Golden Cycle Route(ゴールデンサイクルルート)など、新たなモビリティに関連する動きが発現しています。
- これらの観点を念頭に、**地域公共交通計画を立案していくことが必要となります。**

戦略3:居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、 Gondola等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのグランドデザインを描きます。

3-2.施設の適切な維持管理と開発コントロール

主導的に実施：湯沢町（企画政策課、総務管理課）

実施時期：前中後期（2022-31）

施設が放置されることなく適切に維持管理される仕組みを構築します。また、民間企業が投資・開発をしたいと思ってもらえる地域を目指すことは重要ですが、目指す地域像を共有しつつ、無秩序な開発をコントロールする仕組みを作っていきます。

実施時期中にやること	湯沢町空き家等の適正管理に関する条例を施行しているほか、空き家バンクを設立しマッチングを行っている。		
令和4年度中にやること、やったこと	空き家バンクの運営 登録済24件、成約13件、利用希望者131人		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	供給<需要の状況。		
評価	予算額	課題あり	400
令和5年度にやること	引き続き物件の掘り起こしを行う。		



戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、ゴンドラ等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのグランドデザインを描きます。

3-3.歩きたくなる街並みと滞在したくなる空間の整備

主導的に実施：湯沢町（観光商工課） 実施時期：前中後期（2022-31）

安全に歩いて、かつ歩きたい雰囲気のある街並みを整備していきます。また、特別な目的がなくても居たくなる場所や、ワーケーション等で滞在できる居心地の良い空間などを整備することで、来訪者の滞在時間の延長にもつながります。

湯沢町では、1992年に「豊かな自然と調和した美しい湯沢町をつくる条例」を制定しましたが、既存の条例や計画も再度見直す必要があるとともに、実際に実現できるようにするためにも、住民や事業者など全ての人の意識醸成を地道かつ長期間にわたって行うことが重要です。

実施時期中にやること	令和3年度に「商店街エリア活性化事業」を実施し、越後湯沢駅東口商店街の調査を行った。令和4年度も引き続き活性化支援を行う。		
令和4年度中にやること、やったこと	令和4年度も芝浦工業大学に委託し、商店街の方々（グループ）への支援を実施中。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	1,000千円
令和5年度にやること	商店街の方々イベントや取組などを実際に行うことを目指す。		



戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、ゴンドラ等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのランドデザインを描きます。

3-4.湯沢町ならではの風景を楽しめる視点場の発掘と整備

主導的に実施：湯沢町（観光商工課） 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町には四季折々、町民それぞれに愛着のある多様な自然景観があります。これらの景観の魅力発信していくとともに、こうした景観を楽しめる視点場を発掘し、発信していきます。

実施時期中にやること	令和2年度から魚野川右岸遊歩道整備、駐車場整備、トイレ建築を行った。		
令和4年度中にやること	川沿いに桜、道路と遊歩道の間にはもみじを植栽した。駐車場への露店出店を行った。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	にぎわい創出のため、橋駐車場への露店出店を計画したが、1事業者の申込のみであり、出店は1日もなかった。		
評価	予算額	順調	2,742千円
令和5年度にやること	遊歩道、駐車場、トイレの管理委託（将来的には指定管理）。		



戦略3：居心地の良い景観・街並みの整備

戦略3 居心地の良い景観・街並みの整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 湯沢町は自然資源、施設（スキー場、施設、建物、ゴンドラ等）を含め、人の手を加えて開発・整備をしてきたことが特徴です。一方で適切に管理されていない施設の放置は、まちのイメージの低下や治安の悪化にもつながります。既存の施設を適切に維持管理していく仕組みが必要であるとともに、新規の開発コントロールや、貴重な資源は活かしつつ再開発なども進め、居心地がよく長期滞在したくなるような空間づくりを進めます。
- ✓ また、湯沢町の魅力である自然資源や自然景観も人の手を入れながら生活を共にしてきました。特に町内の山々は標高差があることが特徴の一つであり、多様な種類の桜や高山植物などが楽しめます。また、ダイナミックな山々や里山の風景などの自然景観を楽しめる視点場や街並みを整備することで上質な滞在空間を実現します。
- ✓ まずは、「戦略4：利用者目線での受け入れ環境の整備」も含め、来訪者の導線などもイメージしながら、まちのランドデザインを描きます。

3-5.戦略的な植物の植樹と整備

主導的に実施：湯沢町（観光商工課） 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢桜100選や、花の百名山といわれる平標山の他、ヒカリゴケなど町内では珍しい植物もみることができます。こうした貴重な植物を保全しつつ、標高差などを活かした植物の保全や植樹をおこない、湯沢町を代表する魅力的な景観の一つとして整備していきます。（3-1のランドデザインの中でランドスケープデザインも検討）



戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-1.シーズンごとの利便性を考慮した二次交通の整備

主導的に実施：湯沢町（企画政策課） 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町は、苗場かぐらエリア、越後湯沢温泉エリア、湯沢つちたるエリアの3エリアに分かれます。季節によって利用者も目的も異なりますが、路線バスは利用方法やルート等がわかりづらく、現時点では現金しか使えない等、初めて訪れる人やインバウンドにとっては使いづらい状況にあります。冬季は共通リフト券とも掛け合わせたスキー場シャトルバスの運行実験などをおこなっていますが、住民やリゾートマンション利用者などの利用も見越した上で持続可能な二次交通のあり方を検討し、整備していきます。



販売期間：7月16日(金)～9月12日(日)
<https://www.taniguchi-watson.com/contents/2021/07/16/20210716.html>
 若狭トラジャットセンター(Shin-Ekoport tanigawa)内

販売するyuumoの価格・有効期限

種類	有効期限	価格
① 1日乗車券	1日	5,000円
② 2日乗車券	2日	10,000円
③ 3日乗車券	3日	15,000円
④ 4日乗車券	4日	20,000円
⑤ 5日乗車券	5日	25,000円

※有効期限は、乗車開始の日を1日目とします。有効期限が満了した場合は、乗車できなくなります。

販売場所：湯沢町観光協会 湯沢モビリティパス販売所
 〒959-8501 湯沢町湯沢1-1-1 湯沢モビリティパス販売所

お問い合わせ：若狭トラジャットセンター（営業時間：9:00-17:00）TEL 050-8881-3050
 主催：湯沢町MaaS推進協議会（湯沢町、湯沢町、一般社団法人湯沢観光まちづくり機構）

実施時期中にやること	地域公共交通活性化協議会を設置し、町内の公共交通について議論する。		
令和4年度中にやること	地域公共交通活性化協議会を設置して議論する。これまでに3回開催済。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	5,617千円
令和5年度にやること	R5はR4に作成した計画推進のため、具体的な協議などを行う見込み。		

戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-2.インフォメーション機能の充実

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構等 実施時期：前期（2022-24）

越後湯沢駅構内に広域観光情報センター、西口に雪国観光舎がありますが、前者は場所が奥まわってわかりづらい、両施設の使い分けがわからないなど課題もあります。今後、両者の機能整理なども行いつつ、来訪者にわかりやすい案内所を整備します。また、駅のみならず、主要な観光施設、他エリアの地区観光協会の案内所の役割も整理していきます。

実施時期中にやること	越後湯沢駅構内の広域観光情報センターはこれまでのえちご魚沼観光開発協議会からの業務受託に加え、新潟県からの業務受託として、令和4年度から全県の情報発信を行っている。また、インバウンドの回復を見込み、掲示物等の表記について多言語表記に戻ってきています。		
令和4年度中にやること、やったこと	デジタルサイネージを活用した情報発信を準備している。情報発信にあたっては日本語に加え、英語・中国語・韓国語などの多言語を予定。英・中言語研修の実施。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	3,720千円
令和5年度にやること	令和4年度の結果を振り返り、分かりやすいサイン整備の実施。		



戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-3. 玄関口となる越後湯沢駅の耐震化と機能向上

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中後期（2022-31）

特に越後湯沢駅は湯沢町の玄関口であり、シンボルでもあります。耐震化工事等のタイミングに合わせ、駅のデザイン改修や機能向上についても提言をおこなっていきます。



<https://www.town.yuzawa.lg.jp/material/images/group/11/nisiguti1.jpg>

戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくるのが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-4.Wi-Fi整備、キャッシュレス決済等の推進

主導的に実施：湯沢町（観光商工課） 実施時期：前中期（2022-26）

特に新型コロナウイルス禍でテレワークやキャッシュレスが急速に進んでいますが、デジタル化ともあわせてWi-Fi整備、キャッシュレス化の推進は優先的におこなっていきます。

実施時期中にやること	キャッシュレス決済の促進		
令和4年度中にやること、やったこと	湯沢町内はキャッシュレス決済の導入が進んでいる。地域通貨（電子）の導入に向けて、事業者から情報収集した。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	地域通貨（電子）のランニングコストが高いのがネック。		
評価	予算額	課題あり	無し
令和5年度にやること	引き続き地域通貨（電子）の導入を検討する。		



戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-5. 観光案内サイン、登山道、駐車場、トイレ等の適切な整備・管理

主導的に実施：湯沢町（観光商工課） 実施時期：前中後期（2022-31）

二次交通はもちろんのこと、現地までの適切な観光案内サイン、現地の遊歩道や登山道、駐車場、トイレなど、統一感のあるデザインの元でインフラ整備を適切におこなっていきます。

実施時期中にやること	新たな案内サインの整備予定はない。		
令和4年度中にやること、やったこと			
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	—	無し
令和5年度にやること	適正に維持管理を行う。		



戦略4:利用者目線での受け入れ環境整備

戦略4 利用者目線での受け入れ環境整備

基本方針①、②、③、④

- ✓ 今後、来訪者は世代交代が進み、さらにインバウンドも、国籍や嗜好性などが多様化するなど、客層が大きく変わってくることが想定されます。リピーター率が高い湯沢町ですが、初めて訪れる人にもわかりやすく、事業者都合ではなく利用者目線に立った受け入れ環境の整備が求められます。また、利用者には住民も含まれます。観光地づくりが住民にとってもプラスになるよう、両者の視点を大切にしていきます。
- ✓ 戦略3とともに、来訪者の導線をイメージしたランドデザインの中で整備方針の全体像を描いていきます。

4-6.多様な利用者を想定した受け入れ環境の整備

主導的に実施：湯沢町（企画政策課） 実施時期：前中期（2022-26）

インバウンド、宗教上の戒律がある方、障がいのある方、LGBTQ（性的マイノリティ）など、来訪者層はさらに多様化することが考えられます。多様性に対する正しい理解やサービス対応など、湯沢町の事業者や住民なども含めた全員が理解を深めながら受け入れ環境整備を行っていきます。

実施時期中にやること		越後湯沢駅東口E V設置	
令和4年度中にやること、やったこと		越後湯沢駅東口のE Vが12月に稼働開始予定。	
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	順調	251,240千円 R3:92,000 R4:159,240
令和5年度にやること		適切な維持管理。	



戦略5：町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

戦略5 町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

基本方針②、④

- ✓ ここ数年の間に自然環境保全に対する意識は急激に高まっています。湯沢町では、2020年に第2次環境基本計画を策定しましたが、今後は観光面においても環境対策が行われていることが必要条件になると考えられます。
- ✓ 湯沢町は古くから自然の恩恵を受けて観光事業に取り組んできました。この自然を後世にわたって受け継いでいくためにも、地域一丸となって環境負荷の少ない観光地づくりをおこなっていきます。

5-1.環境負荷の少ない観光地づくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

観光業は大人数が訪れることから、どうしても環境負荷がかかってしまう傾向にあります。観光業による影響を認識しつつ、CO2削減、フードロスやフードウェイストの削減、プラスチックごみの削減、再生エネルギー活用などの検討など、湯沢町流の環境負荷の少ない観光地づくりを進めていきます。

実施時期中にやること	プラスチック新法等の情報収集に努めている。		
令和4年度中にやること、やったこと	パンフレットなどの紙媒体の制作物については、制作時に同時にデジタル化を進めるなど、必要以上の資源を活用しない取組を始めている。総合パンフレットについては、必要以上に配布せず、QRコード表示のチラシを設置し、デジタルに誘導している。冬季のマップについて、町内に存在する複数種類物の統合に取り組んでいる。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	総合パンフレットのみならず、機構で発行している各種パンフレット・チラシのデジタル化を進める。一方で、着地においては紙媒体での観光マップは必要との声もあることから、デジタル化とどう折衷しながら環境負荷の軽減に繋がられるかは、取組と検証を重ねていく必要がある。		
評価	予算額	課題あり	3,000千円
令和5年度にやること	グリーンシーズンマップの統合と、更なるデジタル化。		



戦略5：町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

戦略5 町内外が一体となっておこなう自然環境の保全

基本方針②、④

- ✓ ここ数年の間に自然環境保全に対する意識は急激に高まっています。湯沢町では、2020年に第2次環境基本計画を策定しましたが、今後は観光面においても環境対策が行われていることが必要条件になると考えられます。
- ✓ 湯沢町は古くから自然の恩恵を受けて観光事業に取り組んできました。この自然を後世にわたって受け継いでいくためにも、地域一丸となって環境負荷の少ない観光地づくりをおこなっていきます。

5-2.地域内外が一体となって取組める自然環境保全の仕組みづくり

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中期（2022-26）

湯沢町が多大な恵みを受ける自然環境を、利用しながら保全をしていく取組は、観光事業者だけでなく、行政、住民、来訪者なども含めてみんなでおこなっていく必要があります。すでに「フジロックの森」や「湯沢町自然環境保全基金」等の取組が進んでいますが、財源を確保しつつ、協力できる人が様々な形で支援・参加できる仕組みを全町で展開していきます。



<https://www.e-yuzawa.gr.jp/sys/>

実施時期中にやること	「湯沢町自然環境保全基金」や「フジロックの森プロジェクト」などそれぞれのエリアの強みを活かしながら、全町的な取組として進めている。ガイド組織の設立に向けた取組ともリンクを強めていきたい。		
令和4年度中にやること、やったこと	湯沢町自然環境保全基金において、来訪者に協力頂く仕組みの構築を行った。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	コロナ禍での仕組み構築であり、地域イベントに合わせての動きが取り切れなかった（イベントの中止等による）。また、周知をより進めるように動きを図っていく必要がある。		
評価	予算額	順調	1-2同
令和5年度にやること	湯沢町自然環境保全基金の認知拡大と事業推進		

戦略6：観光産業の構造改革・生産性の向上

戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上

基本方針④

- ✓ 特に宿泊産業をはじめとした観光産業の生産性は必ずしも高いとはいえません。しっかりと収入が得られるような構造改革を行う必要があるとともに、最新技術なども活用しながら生産性や効率性を高めていくことが急務となっています。効率化できる部分は効率化し、観光の原点である「交流」や「おもてなし」にきちんと人手が割けるようにしていきます。
- ✓ また、近年では多様なタイプの宿泊施設の登場や異業種からの観光産業への参入などがみられます。既存の固定概念にとらわれずに、新たな経験価値を提案できるようになるためには、自らも様々なものにアンテナを張りつつ、イノベーションを図っていく必要があります。
- ✓ 宿泊施設や観光施設など、単体の魅力を高めていくことも必要ですが、横のつながりを強化することで、取組める内容も増え、効果も高まっていきます。観光産業に関わる主体のネットワーク構築や人材育成により観光産業全体のレベルアップを図ります。

6-1. 宿泊産業活性化

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中期（2022-26）

家族経営の民宿から団体を受け入れられる温泉旅館やホテルまで、様々な規模の宿泊施設が立地していますが、宿泊施設単体の経営力の向上を図りつつ、ハード・ソフトにおいて魅力を高める取組を支援していきます。（宿泊施設統計の仕組みづくり、宿泊施設経営等の勉強会の開催、ワーケーション促進など）



<https://www.e-yuzawa.gr.jp/sys/sightseeing/>



ゆざわカルタ

戦略6：観光産業の構造改革・生産性の向上

戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上

基本方針④

- ✓ 特に宿泊産業をはじめとした観光産業の生産性は必ずしも高いとはいえません。しっかりと収入が得られるような構造改革を行う必要があるとともに、最新技術なども活用しながら生産性や効率性を高めていくことが急務となっています。効率化できる部分は効率化し、観光の原点である「交流」や「おもてなし」にきちんと人手が割けるようにしていきます。
- ✓ また、近年では多様なタイプの宿泊施設の登場や異業種からの観光産業への参入などがみられます。既存の固定概念にとらわれずに、新たな経験価値を提案できるようになるためには、自らも様々なものにアンテナを張りつつ、イノベーションを図っていくことが必要です。
- ✓ 宿泊施設や観光施設など、単体の魅力を高めていくことも必要ですが、横のつながりを強化することで、取組める内容も増え、効果も高まっていきます。観光産業に関わる主体のネットワーク構築や人材育成により観光産業全体のレベルアップを図ります。

6-2.DX（デジタルトランスフォーメーション）などを意識した観光関連産業の生産性向上

主導的に実施：観光事業者 実施時期：前中期（2022-26）

特に、海外ではデジタル技術を活用したシームレスなサービスの提供が急速に進んでいます。宿泊施設のバックヤード、地域の交通システム、顧客情報の入手とサービス提供などが一体となったCRMの確立など、施設内、地域全体におけるデジタルトランスフォーメーションを推進していきます。（デジタル化すべき場面と人がやるべき場面を見極めて導入）



実施時期中にやること	ゆざわマッチボックスの開始、セルフソーシングの導入促進、OTA、スキー場クーポンの発行。		
令和4年度中にやること、やったこと	令和4年7月から「ゆざわマッチボックス」開始、セルフソーシングの普及。秋冬にOTA、スキー場クーポン発行。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	OTAに頼らず自社サイトで誘客する事業者もいる。		
評価	予算額	課題あり	106,578千円
令和5年度にやること	ゆざわマッチボックスの継続（登録者数、求人数の増加を目指す。）。		



戦略6：観光産業の構造改革・生産性の向上

戦略6 観光産業の構造改革・生産性の向上

基本方針④

- ✓ 特に宿泊産業をはじめとした観光産業の生産性は必ずしも高いとはいえません。しっかりと収入が得られるような構造改革を行う必要があるとともに、最新技術なども活用しながら生産性や効率性を高めていくことが急務となっています。効率化できる部分は効率化し、観光の原点である「交流」や「おもてなし」にきちんと人手が割けるようにしていきます。
- ✓ また、近年では多様なタイプの宿泊施設の登場や異業種からの観光産業への参入などがみられます。既存の固定概念にとらわれずに、新たな経験価値を提案できるようになるためには、自らも様々なものにアンテナを張りつつ、イノベーションを図っていく必要があります。
- ✓ 宿泊施設や観光施設など、単体の魅力を高めていくことも必要ですが、横のつながりを強化することで、取組める内容も増え、効果も高まっていきます。観光産業に関わる主体のネットワーク構築や人材育成により観光産業全体のレベルアップを図ります。

6-3. 農業、製造業、商業等を含めた湯沢町の観光に携わる全ての人の連携体制の強化

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前期（2022-24）

町内でも横のつながりが希薄であるとの課題が挙げられています。業種を超えて交流できる機会を増やしていくとともに、お客様にタイムリーに提供する情報の共有、緊急時の連携体制の確立などをイメージして連携体制を強化していきます。

実施時期中にやること	機構理事会を宿泊、索道、商工、農業、交通など多業種の方に入っていただく構成としている。また、町内の事業者情報の集約を進め、多様な業種が網羅された町内事業所リストの作成を進める。		
令和4年度中にやること、やったこと	地区観光協会等に対して非会員事業者や民泊事業者の情報提供を依頼。情報集約をはじめている。また、会員事業者にも情報提供依頼を進めており、データベース化と機構ホームページへの掲載を進めている。 また、DXワーキングチームを設置、検討課題の一つとして取り組んでいる。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	他業種の場合は、機構として名簿作成等を進めた経緯がないことから、商工会や業態別の組合等の理解を得ながら、情報提供等の協力をお願いする必要がある。		
評価	予算額	課題あり	500千円
令和5年度にやること	DXの推進。HPのメンテナンス。		

戦略7：“戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

戦略7 “戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

基本方針③、④

- ✓ ターゲットと手法を見据え、費用対効果を意識した戦略的な情報発信をおこないます。また、町内の各主体が個別に整備してきたパンフレット、ウェブサイト、プロモーションの内容と実施主体を全て見直し、利用者にとってわかりやすい情報提供を行います。
- ✓ プロモーションについては県や外部機関とも連携しながら、まずは発信する中身を伴った上で効果的に実施していくものとします。
- ✓ 取組や受け入れ体制整備が進むかどうかは、地域内に対してどれだけ情報が浸透しているかが重要なポイントになります。行政や観光関連団体が目指している方向性、施策、取組などを適切なタイミングで共有しつつ、定期的に相互にコミュニケーションを図ることで信頼を得ることもつながります。観光事業者や観光推進組織の会員のみならず、住民も含めた情報共有やインナープロモーションにも取組みます。

7-1. 利用者目線の情報発信と費用対効果を意識したプロモーションの戦略的实施 (外部機関や県等との連携等)

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

まずはこれまでの紙媒体、ウェブサイト、SNS、プロモーションの内容を見直し、ターゲットを想定した上で情報発信戦略、プロモーション戦略を策定します。また、内部の資源の掘り起こしと磨き上げを行いつつ、情報発信の中身についても再構築します。

また、インバウンド向けの情報発信についても、国や調査期間が公表しているデータ等のさらなる活用と共有を図り、研究を進めるとともに、県等と定期的にコミュニケーションを図りながら連携して発信をおこないます。



<https://www.e-yuzawa.gr.jp/sys/>

実施時期中にやること		プロモーション手法の見直し。	
令和4年度中にやること、やったこと		令和3年度から抜本的な見直しに着手している。湯沢の認知度向上に向けたプロモーションや、企画事業実施の際の事業効果を最大化するためのプロモーションなど、必要な宣伝を必要なタイミングで実施している。DXワーキングチームを設置し、その中でも検討を行って行くこととしている。	
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法		宣伝媒体、特にSNSプロモーションは絶えず進化とリニューアルが進んでおり、潮流にあったプロモーションを行うためにも、トレンド等の情報収集が必要。マーケティング人材の育成、人材活用にも取り組んでいく必要がある。	
評価	予算額	課題あり	2,000千円
令和5年度にやること		効果の高い情報発信手法の検討と実施。	

戦略7：“戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

戦略7 “戦略的な”情報発信と内外プロモーションの実施

基本方針③、④

- ✓ ターゲットと手法を見据え、費用対効果を意識した戦略的な情報発信をおこないます。また、町内の各主体が個別に整備してきたパンフレット、ウェブサイト、プロモーションの内容と実施主体を全て見直し、利用者にとってわかりやすい情報提供を行います。
- ✓ プロモーションについては県や外部機関とも連携しながら、まずは発信する中身を伴った上で効果的に実施していくものとします。
- ✓ 取組や受け入れ体制整備が進むかどうかは、地域内に対してどれだけ情報が浸透しているかが重要なポイントになります。行政や観光関連団体が目指している方向性、施策、取組などを適切なタイミングで共有しつつ、定期的に相互にコミュニケーションを図ることで信頼を得ることもつながります。観光事業者や観光推進組織の会員のみならず、住民も含めた情報共有やインナープロモーションにも取組みます。

7-2. 地域内へのわかりやすい情報共有（インナープロモーション）

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

地域内の事業者や住民向けに、行政や観光関連組織の取組や観光振興による効果（例：観光消費額や経済波及効果等）を広報等で定期的に発信することで、町の基幹産業としての観光産業の実態を広く共有していきます。また、観光振興が地域住民の住みやすさや誇りの醸成にもつながり、観光振興への理解を高めることで、観光客に対するおもてなしの心も醸成していきます。

また、個別事業者への連絡や情報共有についても、発信時期の遅さや共有ツール等による共有の遅れ等の課題が指摘されてきました。デジタルツールなども活用しながら、よりタイムリーに伝わる仕組みを検討します。

実施時期中にやること	広報ゆざわでの発信、会員向け情報発信ツールの導入。		
令和4年度中にやること、やったこと	広報ゆざわに「まちづくり情報室」を掲載。機構通信を全会員にFAX。Slackの本格導入。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	情報発信手段の移行を行っている最中であるが、登録人数が少ない状況にあり、今後会員向けアナウンスを強める必要がある。		
評価	予算額	課題あり	500千円
令和5年度にやること	FAXからSLACKへの完全切替え。		

情報発信 まちづくり情報室 2022年9月号

湯沢町 Instagram フォトコンテスト 2022

湯沢町の「ヤシラケ」(白の山)「ヤシラケ」(赤の山)をテーマにした写真コンテストを開催いたします。フォトコンテストをInstagramで開催中です。今回は、紅葉シーズンに合わせて10月8日(日)から「一般写真部門」の第二弾が始まります。応募いただいた方には、湯沢町観光まちづくり機構オリジナルのオリジナルグッズをプレゼントいたします。

※応募期間は10月8日(日)～11月13日(日)までです。
※応募方法は、湯沢町観光まちづくり機構ホームページでご確認ください。

今後の「ゆざわマルシェ」の開催予定

各イベントの詳細は、湯沢町観光まちづくり機構ホームページでご確認ください。

開催スケジュール

10月15日(日)	湯沢町観光まちづくり機構
10月22日(日)	湯沢町観光まちづくり機構
10月29日(日)	湯沢町観光まちづくり機構
11月5日(日)	湯沢町観光まちづくり機構

湯沢3大ロープウェイ乗っ得期

開催期間 令和4年10月8日(日)～11月6日(日)まで

「湯沢ドラゴンランド」(白の山)「湯沢ロープウェイ」(赤の山)「湯沢ロープウェイ」(白の山)いずれかの特別乗得チケットを、もう一方のチケット売り場でご提示いただく。通常料金から大人300円引き。こども150円引きの特別価格で乗車できます。

① (湯沢ドラゴンランド) からスキー場 湯沢スキー場 ☎025-789-4117
② (湯沢ロープウェイ) からスキー場 湯沢スキー場 ☎025-789-3111
③ (湯沢ロープウェイ) からスキー場 湯沢スキー場 ☎025-789-3111

お問い合わせ先 一般社団法人 湯沢町観光まちづくり機構
☎025-789-5505 傳 025-789-5333 傳 025-789-5336

湯沢町観光まちづくり機構 slack移行へのお願い

湯沢町観光まちづくり機構では文書や情報を簡単に、早く、直接お届けするためFAXでのお知らせからSlackを使ったお知らせに切り替えます。令和4年4月を移行準備期間とし、令和5年4月に完全移行の予定です。移行に伴いSlackを事業者様ご使用のメールアドレスに設定する必要があります。つきましては湯沢町観光まちづくり機構にて下記の情報をご確認ください。

- ① 登録するメールアドレス
- ② 自分が使用するカテゴリ (下記の項目から一つを選択)
・ 飲食業 ・ 宿泊業 ・ スキー場 ・ その他
- ③ ご本人様名前
- ④ 店舗名または施設名
- ⑤ 連絡先

上記項目を記入して
info@e-yuzawa.gr.jp
までメールにて送信をお願いいたします!

送信後、頂いたメールアドレスにSlackの招待が届きます。後は「まちづくり機構 大口船場」検索ボックス「Slack」の検索結果(初回参加)に従っていただければSlackに入ることができます。

Slackに関するご不明点がありましたら、下記までご相談ください。
湯沢町観光まちづくり機構
メールアドレス info@e-yuzawa.gr.jp
電話 025-789-5505 (FAX)025-789-5336

戦略8：効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-1.観光関連組織の再編と組織改革

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前期（2022-24）

引き続き、（一社）湯沢町観光まちづくり機構の業務改革と各地区観光協会の支部化による組織再編を進めます。また、広域としての雪国観光圏のブランディングをしつつ、特徴ある民間事業者の取組を牽引する（一社）雪国観光圏と、湯沢町内の観光まちづくりをボトムアップで進める湯沢町観光まちづくり機構との役割分担を認識し、連携しながら取組を進めます。

（一社）湯沢町観光まちづくり機構については、2021年3月に観光地域づくり候補法人（候補DMO）として登録されました。今後、登録観光地域づくり法人（登録DMO）を目指します。

また、適切な情報公開により信頼を高めていくとともに、業務の効率化やスキルアップなどを図りながら、職員のパフォーマンスの向上、組織の財源構造を見直し、自立的な運営に向けた営利事業の検討も図ります。

実施時期中にやること			
令和4年度中にやること、やったこと		10/28に認可を受けDMO登録法人となった。	
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法		国の補助事業などは広域化を求められる場合も多いことから、湯沢の事業者に資する事業を、雪国観光圏と連携しながら進める。	
評価	予算額	順調	6,800千円
令和5年度にやること		利用できる補助事業の確認と事業実施。	

戦略8:効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-2.観光統計の整備とマーケティングの実施

主導的に実施：湯沢町（観光商工課） 実施時期：前期（2022-24）

観光統計は全ての観光政策の基本になります。現在実施している観光関連の統計について、調査方法、調査項目などを全て見直して観光統計を整備します。また、観光統計と絡めた上で顧客情報を入手しつつ、適切なサービスを提供することでロイヤルティを高めるCRM（Customer Relationship Management：顧客関係管理）等も検討していきます。

実施時期中にやること	観光統計の見直し。		
令和4年度中にやること、やったこと	湯沢町観光戦略会議で検討中。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法			
評価	予算額	課題あり	無し
令和5年度にやること	新たな手法で実施する。		

令和3年度 目的別観光客数調べ

令和3年4月1日～令和4年3月31日

目的別		温泉	名所旧跡	スキー	登山	レジャー	行華	文化施設	釣り	キャンプ	スポーツ	合計
観光資源名称	湯沢地区	三田峠	葛城・岩瀬	葛城山	アルプ	雪まつり	雪国館	清津川	青少年旅行村	テニス		
	奥郡・遊果	山鳥原公園	神立・中重	平嶺山	フタツツバキ	夏まつり	OKKY	生野川		ゴルフ他		
季節別観光客数	春(4・5・6月)	134,300	2,200	103,200	7,300	39,500	0	2,300	3,300	500	14,600	307,200
	夏(7・8月)	72,100	6,400	0	6,800	77,200	35,500	3,500	10,200	1,500	17,800	231,100
	秋(9・10・11月)	153,700	8,600	800	8,400	112,600	3,000	4,900	1,400	600	21,800	315,800
	冬(12・1・2・3月)	351,300	0	1,429,700	0	24,900	0	2,400	0	0	7,900	1,816,200
方面別観光客	県内	218,400	4,400	212,900	11,700	82,400	6,200	3,500	8,700	1,100	44,800	594,100
	北海道	100	0	1,800	0	600	100	0	0	0	0	2,600
	東北	7,700	100	8,100	0	2,000	100	100	0	0	0	18,100
	北陸	21,400	700	18,400	100	14,500	300	200	200	0	100	55,900
	関東	428,200	11,800	1,209,100	10,500	134,600	31,100	8,600	5,700	1,400	17,000	1,858,000
	中部	17,500	100	28,900	200	12,400	0	400	200	100	300	60,100
	近畿	7,500	100	17,800	0	3,300	100	200	100	0	0	29,100
	中国四	4,000	0	4,000	0	3,000	100	100	0	0	0	11,200
	海外	6,600	0	32,700	0	1,400	500	0	0	0	0	41,200
	計	493,000	12,800	1,320,800	10,800	171,800	32,300	9,600	6,200	1,500	17,400	2,076,200
合計	711,400	17,200	1,533,700	22,500	254,200	38,500	13,100	14,900	2,600	62,200	2,670,300	
比較	令和2年度	465,600	20,500	991,600	21,800	215,900	0	5,700	13,000	2,100	44,700	1,780,900
	対前年比	152.8%	83.9%	154.7%	103.2%	117.7%		229.8%	114.6%	123.8%	139.1%	149.9%

戦略8:効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-3.新たな観光財源導入の検討

主導的に実施：湯沢町（観光商工課、税務課、企画政策課）

実施時期：前期（2022-24）

本計画で掲げているようなハード、ソフト両面の取組を確実に実行していくためには、確実に観光に使える財源を確保することが必要です。ふるさと納税の増収を目指すほか、近年他地域で導入が進んでいる宿泊税や、湯沢町内で導入されている湯沢町自然環境保全基金など、使途に合った観光財源について検討を進めます。

実施時期中にやること	ふるさと納税増加、観光財源導入検討。		
令和4年度中にやること、やったこと	ふるさと納税導入倍増計画を実施中。観光財源について行政内部で検討中。まちづくり機構で「自主財源検討会」を開催中。		
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	観光財源について、行政内部で検討中。		
評価	予算額	順調	881,648千円



戦略8：効果的な観光振興を進める上での基盤整備

戦略8 効果的な観光振興を進める上での基盤整備

基本方針④

- ✓ 目標像の実現に向けたこれらの戦略を実行に移し、湯沢町の観光振興を効果的かつ確実に推進していくためには、観光を推進する「人材」「権限」「財源」などを意識した観光推進基盤の強化を図ることが必要不可欠です。
- ✓ また、観光の現状を科学的に把握・分析した上での戦略策定や効果検証が大きな課題となっています。近年急速に進んでいるデジタル化の状況も勘案しつつ、既存の観光統計のあり方を再考し、整備します。
- ✓ 近年、災害や感染症などをはじめとして観光が直面するリスクが増加していることから、リスクマネジメントの強化を図ります。

8-4. 自然災害、感染症等の多様なリスクへの対応

主導的に実施：湯沢町観光まちづくり機構 実施時期：前中後期（2022-31）

地震、台風、豪雨、感染症など、観光を取り巻くリスクを想定し、緊急時に関係者（行政、事業者、医療機関、保健所等）とすぐに連携・連絡できるようネットワーク体制を築いておきます。また、湯沢町としてのDCM（Destination Continuity Management：観光地継続性マネジメント）の策定を検討します。



<https://livelife.town.yuzawa.lg.jp/working/>



<https://www.town.yuzawa.lg.jp/soshikikarasagu/somubu/somukanrika/2/2/1/1298.html>

実施時期中にやること	令和3年度に湯沢版BCPとして、各事業者が自社のBCPを作成できるツール整備を行った。引き続き、運用に向けた作業を進める。	
令和4年度中にやること、やったこと	機構としてのBCP作成を進めながら、職員のBCPに対する意識啓発を進めている。	
令和4年度中にできなかったこと、その理由、解決方法	事業者のBCP運用に向けて、会員への展開を行っていく必要があるが、会員業種別に対応できるBCPの参考例が統一したものとして策定できない為、展開に向けたスケジュールも併せて計画・実施して行く必要がある。	
評価	課題あり	無し
予算額		
令和5年度にやること	リスクの検討と、作成したBCPのブラッシュアップ	